

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人 四日市福祉会 ブルーミング・コフレ		公表日	令和7年 2月26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個人の性格や相性、その時々状況によって居室を分けたり、しきりを使用している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		配置上は満たしているが、時間帯・移動時、活動内容によっては危険な時間帯等もあるため、改善は必要
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		入口等の段差で躓いたりしてしまう可能性もあるため、段差解消等の配慮は必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		個人の性格や相性、その時々状況によって居室を分けている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個人の性格や相性、その時々状況によって居室を分けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○	毎週会議の時間を設け、改善点などの話し合いを行う。	全職員（アルバイト含む）に周知ができていない部分もあるため、会議に参加できていない職員にも周知していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者との面談の場や送迎時に、そこで保護者からのご意見を聞いている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	毎週会議の時間を設け、改善点などの話し合いを行う。	全職員（アルバイト含む）に周知ができていない部分もあるため、会議に参加できていない職員にも周知していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		法人として事業所ごとに交替で第三者評価の受審を行っているが、ブルーミング・コフレとしては今年度は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内のグループホームの会議・研修にも参加させてもらい、その復習等も行う。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		作成はされているが、公表までできていない
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○		児童発達支援管理責任者が主に作成しており、全体職員（アルバイト職員等）への共通理解は不十分な点が多いため、今後、共有する場面が必要である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		児童発達支援管理責任者が主に作成しており、全体職員（アルバイト職員）への共通理解は不十分な点が多いため、今後、共有する場面が必要である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		年度初めにアセスメントシートを保護者に配布し、記載していただき、現在の状況を確認していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		一部の職員で活動プログラムの検討を行っているため、今後、職員会議等で共有や検討も行っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日々、利用される利用者に応じて活動を検討し、活動を行っていく。	「利用者が行いたい活動」を選べられるような支援も取り入れていきたい。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	毎朝、あるいは前日の夕方、当日行う活動等を検討し、共有している。	支援開始前の打ち合わせは一部の職員で行われており、全体への周知は週一回の会議での報告・相談等になる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	支援終了後、次回利用の際の注意点など相談等を行っている。	一部の職員で振り返りが行われており、全体への周知は週一回の会議での振り返りになっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援終了後、次回利用の際の注意点など相談等を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。		○		現在、職員側の視点で支援が行われているため、今後、写真などを活用し、複数の中から、ご本人が行いたい活動を選んでいただける機会もつくる。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		児童発達支援の利用者においては、幼稚園・保育所等との連携は一部の児童しかできていないため、引き続き他の幼稚園・保育所
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		現在、卒業して、障害福祉サービス事業所を利用されている児童はいないが、今後必要と考えている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修まではいかないが、必要に応じて児童発達支援センター相談支援事業所からも助言等をもらっている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		地域の公園で地域の子供たちと出会う程度の活動しか行っていないが、中には顔見知りの方も多く、声をかけていただく機会も多く、大切にしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時やお電話などで保護者と話し合う機会を設けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	法人内で参加できる研修会の情報提供しか行っていない。	今後、外部から提供のあった研修会等でも保護者が参加できそうな研修等の情報提供を行っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	現状、全ての保護者の方と面談の機会は行っていないが、順番に保護者面談の機会を設けている。	現状、全ての保護者の方と面談が行っていないため、順番に保護者面談の機会を設けていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	現状、全ての保護者の方と面談の機会はないが、順番に保護者面談の機会を設けている。	現状、全ての保護者の方と面談が行っていないため、順番に保護者面談の機会を設けていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	法人で年に一度保護者会を行っているが、今年度、児童の方まで広げられていない。	今後、法人での保護者会の機会も情報提供を行っていき、保護者との意見交換会の機会も設けていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○		四日市福祉会の広報や、保護者に写真の添付を行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		写真、絵などで支援を行う場面はあるが、口頭で伝えてしまう部分もあり、写真などの支援も増やしていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		年に一度、法人内でフルフエスタを通して地域に開放を行っている。 法人内の事業所イベントのチラシを地域に配る機会も設けている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	マニュアルや研修を職員には行えているが、保護者への周知ができていない。	マニュアルを保護者への周知ができていないため、面談時等を通して、マニュアルの説明等も行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		マニュアルを保護者への周知ができていないため、面談時等を通して、マニュアルの説明等も行っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	このような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○				